

新しい生活様式時代 における 住環境の現在と未来

■ 第一部

「輪島カブーレの「ごちゃまぜ」はどうなったか」

松尾信一郎(株式会社五井建築研究所)

「withコロナ・afterコロナにおける住宅系の未来」

住宅系研究報告会 4 委員会運営幹事
(都市計画、農村計画、建築計画、建築社会システム)

■ 第二部 分科会

「withコロナ・afterコロナにおける住宅研究を考える」

コーディネーター：平田 隆行 (和歌山大学)
三笠 友洋 (西日本工業大学)、友瀨 貴之 (宮城大学)

2020年12月4日 (金) 15:00~17:00

オンライン開催 (ZOOM)

■参加費：会員 3,000 円、会員外 4,000 円、学生 1,500 円

※住宅系研究報告会2日間の参加費も含まれています。

■定員：70名 (申込先着順)

■申込方法：Webによる事前申込

■申込URL：<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=637410>

■申込締切：11月26日(木)

企画：コーディネート：住宅系研究報告会 農村計画委員会幹事 (平田 隆行、三笠 友洋、友瀨 貴之)

COVID-19感染拡大による影響が続く現在において、私たちの住環境はどのように変化し、これからどのように変化していくのか。刻々と変化していく状況の中で住宅系研究報告会としては住環境に焦点をあて、現在について広く把握していくとともにみなさんと未来について議論を行いたいと思います。

今回のPDはII部構成としており、I部では、「ごちゃまぜ」をキーワードに活動してきた輪島カブーレの現在についての報告、そして都市計画、農村計画、建築計画、建築社会システムの4委員会に所属する幹事メンバーからみる住環境の現在についての議論を通じて、COVID-19による住環境の変化を広く知る機会とします。II部では、I部での議論を踏まえ、今後の展望について聴講者のみなさんを交えて議論していくことで、これからの住宅系研究のキーワードを見出す機会とします。

未知なことが多いテーマではありますが、住宅系研究者のみなさんがみている現在と未来を共有する場とすることでこれからの住宅系研究の1つの契機となればと思います。